

Ⅲ 重点施策への関心・認識

鳥取県が重点的に施策を展開している事業についての認識や意識をお聞きします。

問5 鳥取県の人口は約57万人(H28. 10月現在)ですが、今後も減少していくと予想されています。このことについて御存知でしたか、また関心がありますか。(〇は1つ)

～『知っていて、関心もある』が約6割～

鳥取県の人口減少問題について、「知っていて、関心もある」が59.6%と6割近くが認識し、関心もある。また、「知っていたが、特に関心は無い」が26.4%あり、人口減少問題に関心はないものの認識は持っている。

年代別でみると、各年代とも半数近くが「知っていて、関心もある」と答えているものの、年代が低くなるにしたがって「知らなかった」という回答が高くなっている。

図 18 鳥取県の人口減少問題の周知度

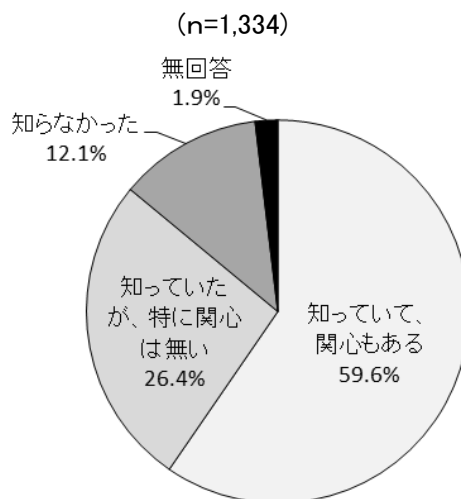
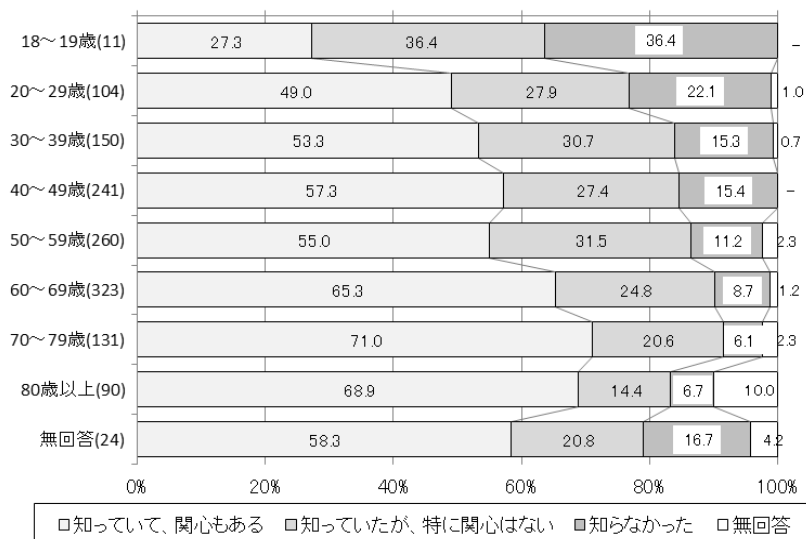


図 19 鳥取県の人口減少問題の周知度



問6 鳥取県の人口増への取組として優先すべきだと思う施策を3つお選びください。

～「雇用の場創出」「結婚や出産への支援」「子育て環境充実」が優先施策～

鳥取県の人口増への取組として優先すべきだと思う施策は、「雇用の場の創出の促進」が62.2%と圧倒的に多く、次いで「結婚や出産を支援する施策」が40.5%、「子育て環境の充実」が37.6%、「県外大学に進学した県内出身者のUターン促進」が34.9%、「県内出身者の県内大学進学や県内就職を促進させる取組」が32.4%と続き、雇用の場を確保したうえで県内出身者のUターン促進を図り、結婚・出産や子育ての環境整備を推進していく施策が必要という意見が多くみられる。

性別でみると、男性は「雇用の場の創出の促進」「結婚や出産を支援する施策」が高く、女性は「県内出身者の県内大学進学や県内就職を促進させる取組」「県外大学に進学した県内出身者のUターン促進」が高い。

年代別でみると、10～30歳代は「結婚や出産を支援する施策」、30歳代では「子育て環境の充実」、50～70歳代は「雇用の場の創出の促進」の割合が高い。

性・年代別でみると、男性の50～60歳代では「雇用の場の創出の促進」、女性の10～40歳代で「子育て環境の充実」、10～30歳代で「結婚や出産を支援する施策」の割合が高い。

図 20 鳥取県の人口増への取組として優先すべきだと思う施策

(n=1,334)

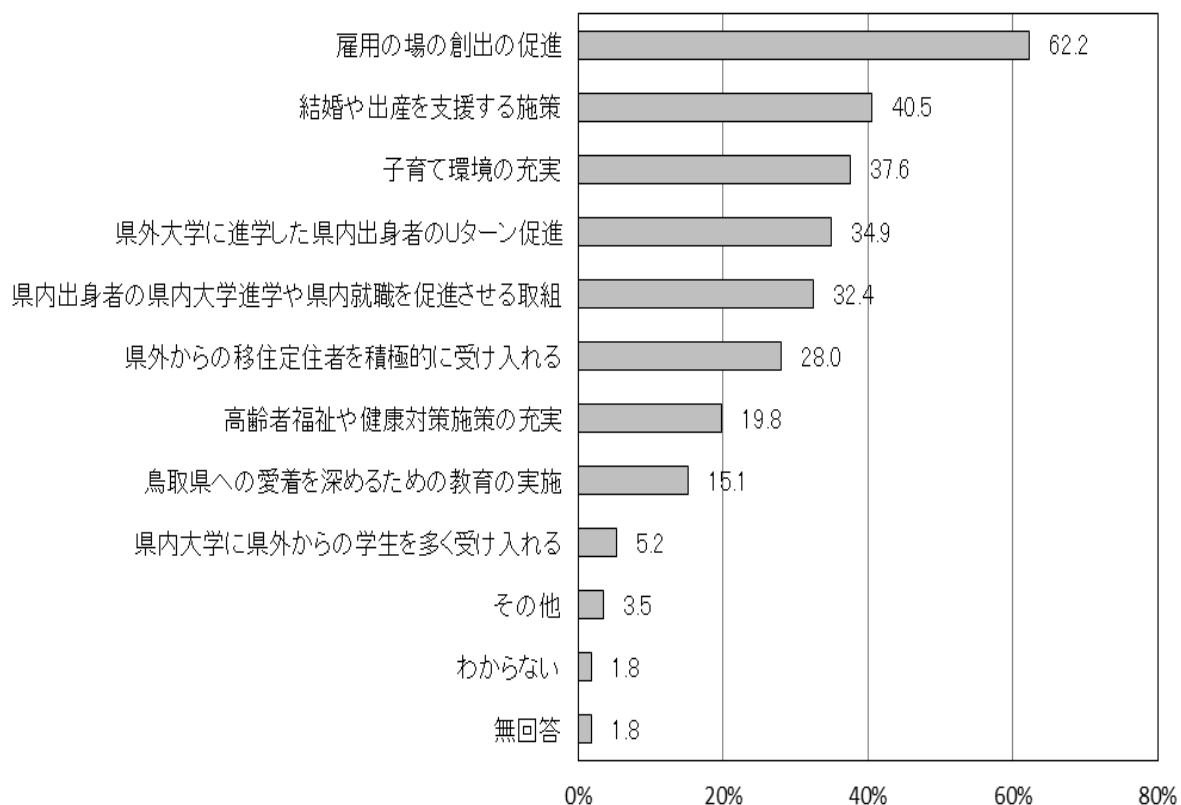
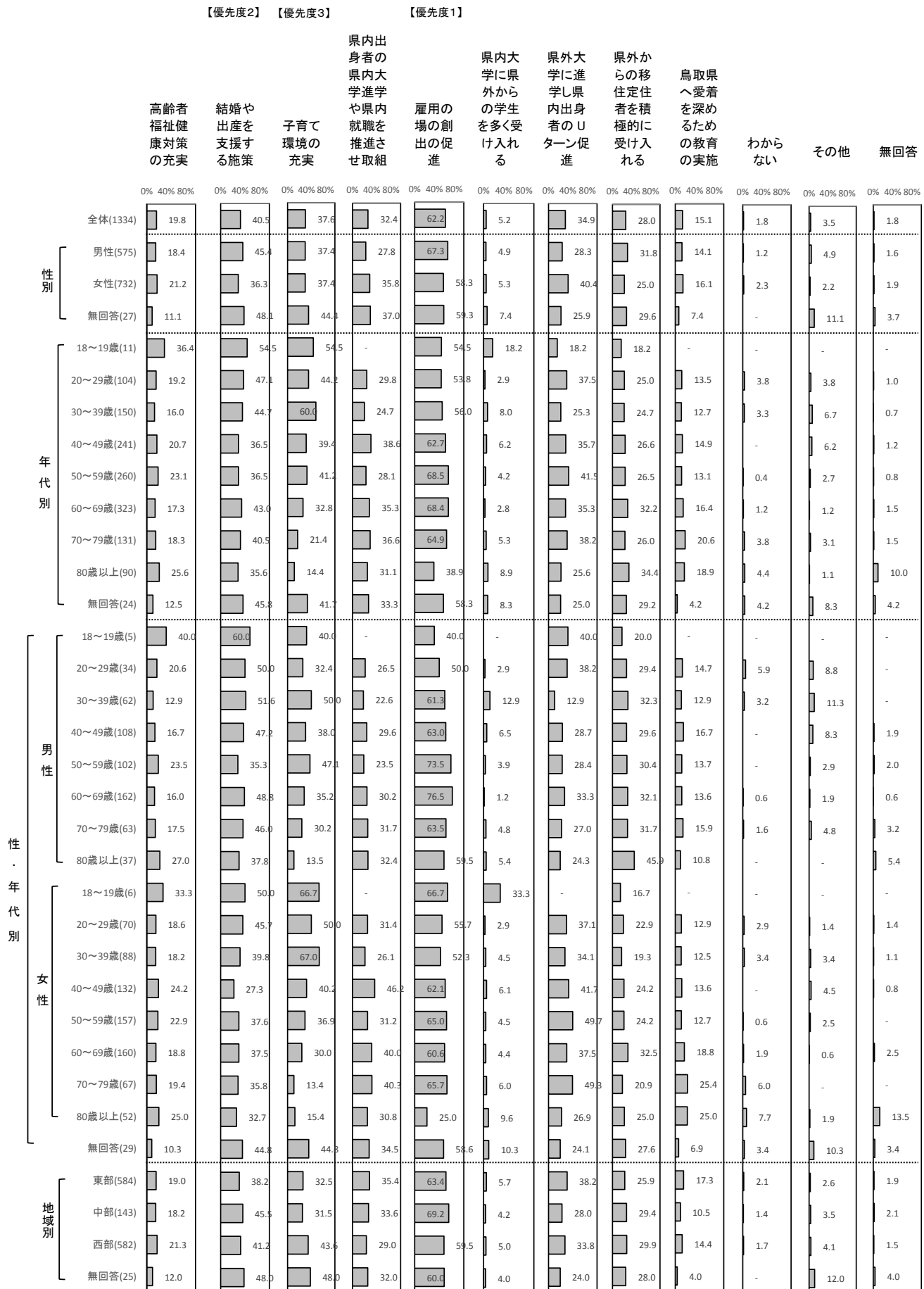


図 21 鳥取県の人口増への取組として優先すべき施策



<子育て施策について>

問7 鳥取県で行われている子育て施策(もしくは名称・フレーズ)で、あなたが御存知のもの・聞いたことがあるものをお選びください。(〇はいくつでも可)

～「子育て王国とっとり」「とっとり子育て応援パスポート」は6割以上が認知～

鳥取県で実施の子育て施策の認知度は、「子育て王国とっとり」が71.4%と最も認知度は高く、次いで「とっとり子育て応援パスポート」が60.9%、「保育料の無料化」が36.7%、「えんトリー(とっとり出会いサポートセンター)」が23.9%と続いている。

性別でみると、各施策とも女性の認識の割合が男性を上回り、特に「とっとり子育て応援パスポート」では20ポイント以上、「子育て王国とっとり」では10ポイント以上上回っている。

年代別でみると、20～50歳代の幅広い年齢層で「子育て王国とっとり」を認識している。また30～50歳代で「とっとり子育て応援パスポート」、30歳代で「保育料の無料化」「とっとり子育て隊」の認識が高い。

性・年代別でみると、男性の30～50歳代で「子育て王国とっとり」の認識が高い。女性の30～50歳代では「とっとり子育て応援パスポート」の認識が圧倒的に高い。

図 22 鳥取県で行われている子育て施策の認知度

(n=1,334)

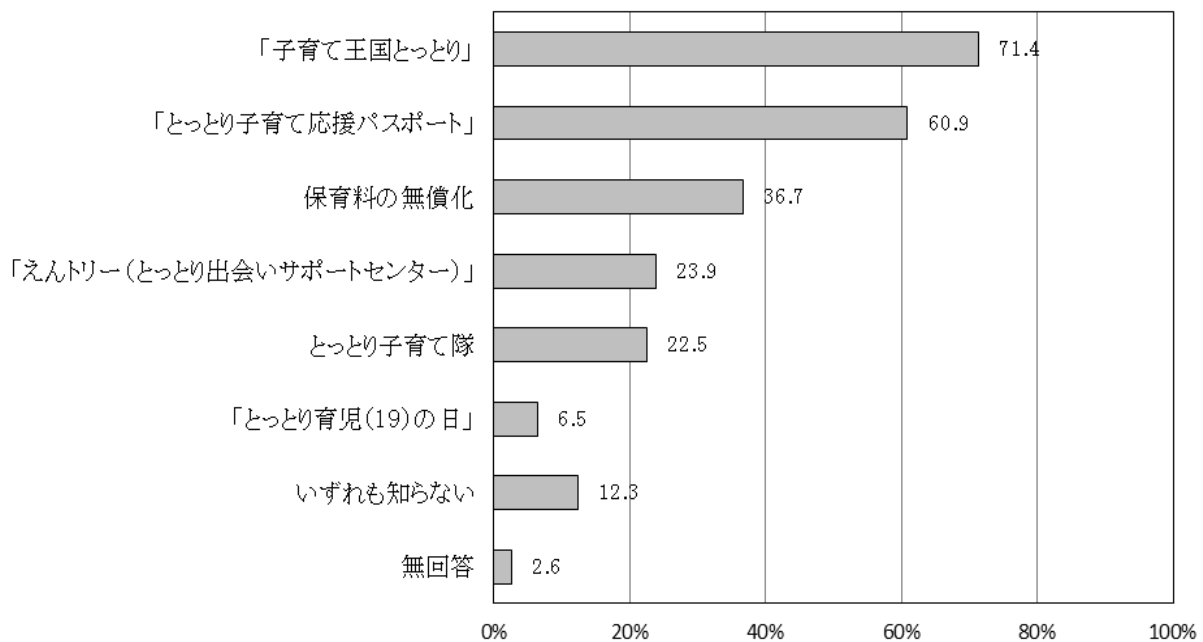
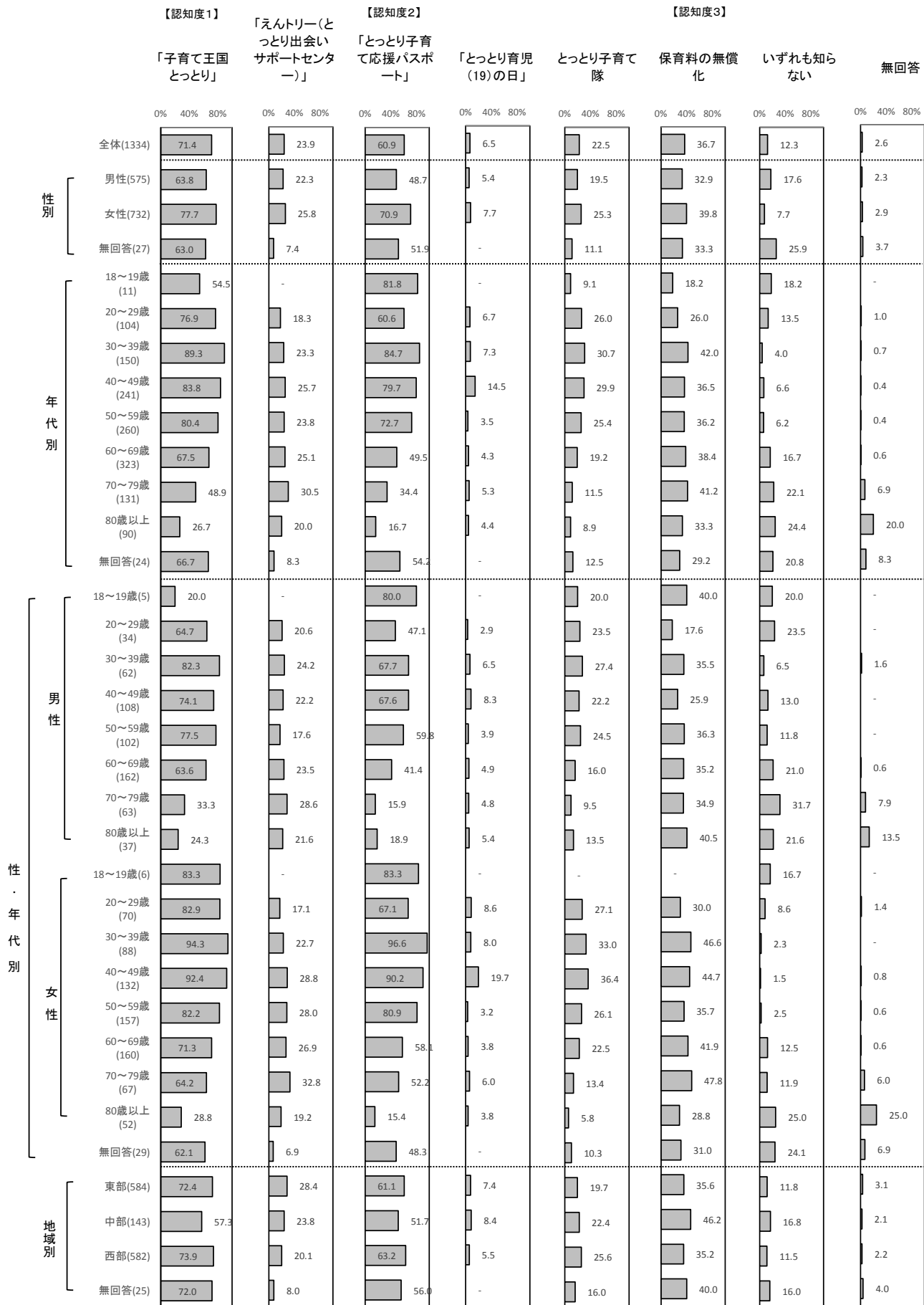


図 23 鳥取県で行われている子育て施策で知っているもの・聞いたことがあるもの



問8 出生率を上げるために、次のどの項目を今後強化していくべきだと思いますか。
あなたが重要だと思う項目を次の中から3つお選びください。

～出産・育児後のスムーズな職場復帰への環境づくりや
保育施設の増加、子育てのための経済支援が重要～

出生率を上げるために、今後強化していくべき項目の上位には、「出産・育児で仕事を離れた方がスムーズに社会復帰できる環境や、男女ともに子育てしながら安心して働くことのできる職場環境の整備」が61.8%と最も多く、次いで「子どものを安心して預けられる体制の整備(保育所・認定こども園などの増加)」が50.1%、「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」が49.1%と続き、「出産・育児後に復帰できる職場環境の整備、保育施設の増加、子育てのための経済支援」を望む意見が多くみられる。

性別でみると、男性は「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」「出会いの場・結婚への支援体制の強化」、女性は「出産・育児で仕事を離れた方がスムーズに社会復帰できる環境や、男女ともに子育てしながら安心して働くことのできる職場環境の整備」「不妊治療にかかる経済的支援」が高い。

性・年代別でみると、30～50歳代の女性で「不妊治療にかかる経済的支援」が高くなっている。

図 24 出生率を上げるための今後の強化項目
(n=1,334)

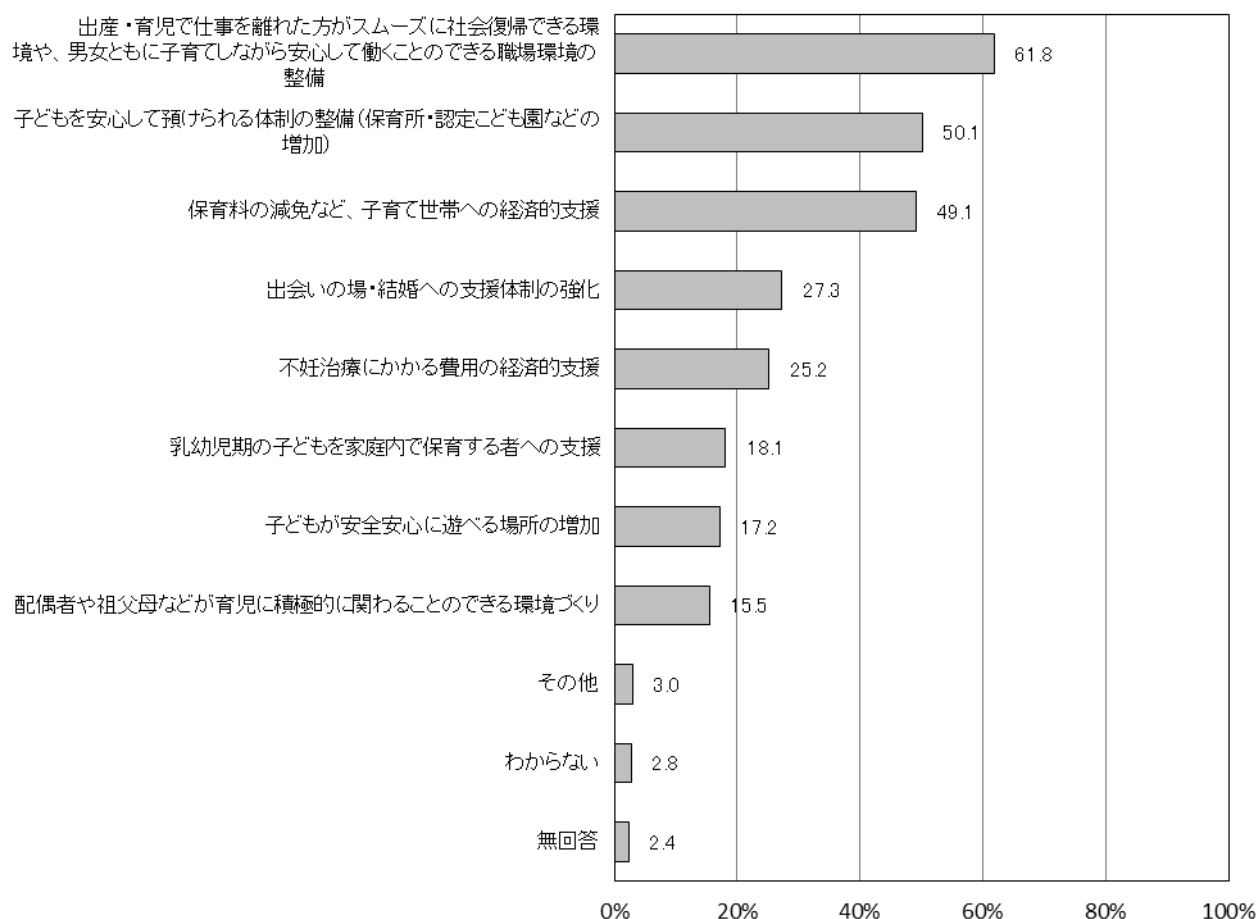
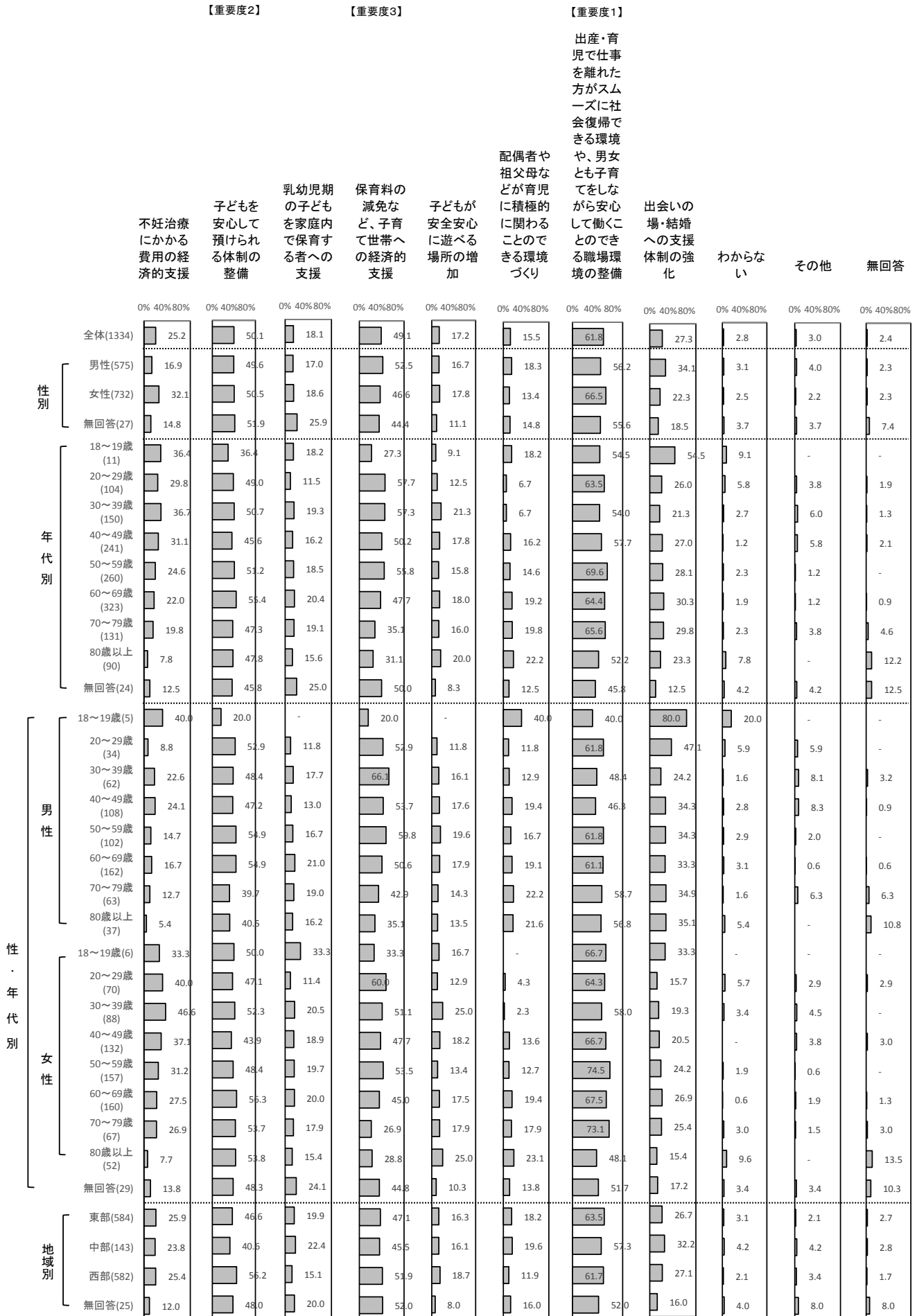


図 25 出生率を上げるため今後強化すべき項目



問9-1 鳥取県では、結婚を希望する未婚の男女に出会いの場を提供するなど、婚活を支援する事業を行っていますが、このことについてどうお考えですか。(○は1つ)

～「積極的に行うべき」「どちらかというで行うべき」と賛同の意見が6割超～

鳥取県が結婚を支援する事業を行うことは、「積極的に行うべき」が44.2%、「どちらかというで行うべき」が23.5%と、結婚支援事業の実施に賛同する意見が67.7%と約7割近くを占めている。一方、「行うべきでない」が1.8%、「どちらかというで行うべきではない」が2.7%と、否定的な意見は4.5%にとどまっている。

性別でみると、男性が女性に比べて結婚を支援する事業を「行うべき」と答えている。

年代別でみると、60～70歳代で「積極的に行うべき」が他の年齢層に比べて高くなっている。

性・年代別でみると、男性では40～50歳代、70歳代で結婚を支援する事業に賛同する意見が多くみられ、女性では60歳代が他の年齢層に比べて事業に賛同する意見が多くみられる。

地域別では、中・西部地区は、東部地区に比べて「積極的に行うべき」という割合が高い

図 26 鳥取県が結婚を支援することについて

(n=1,334)

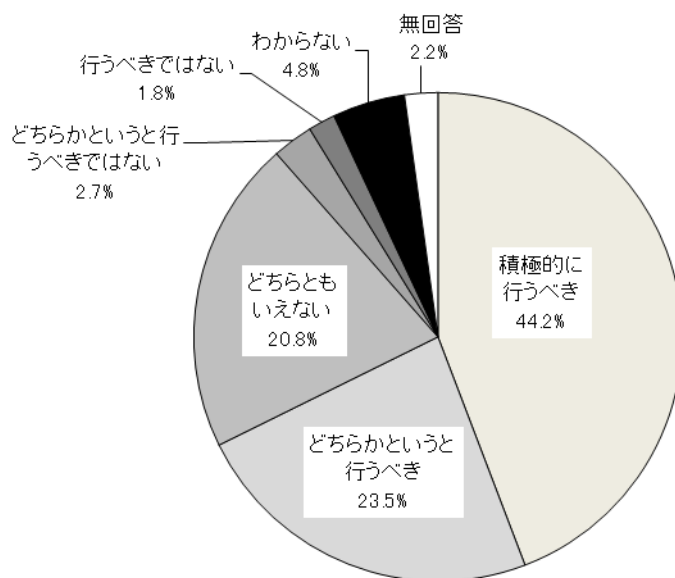
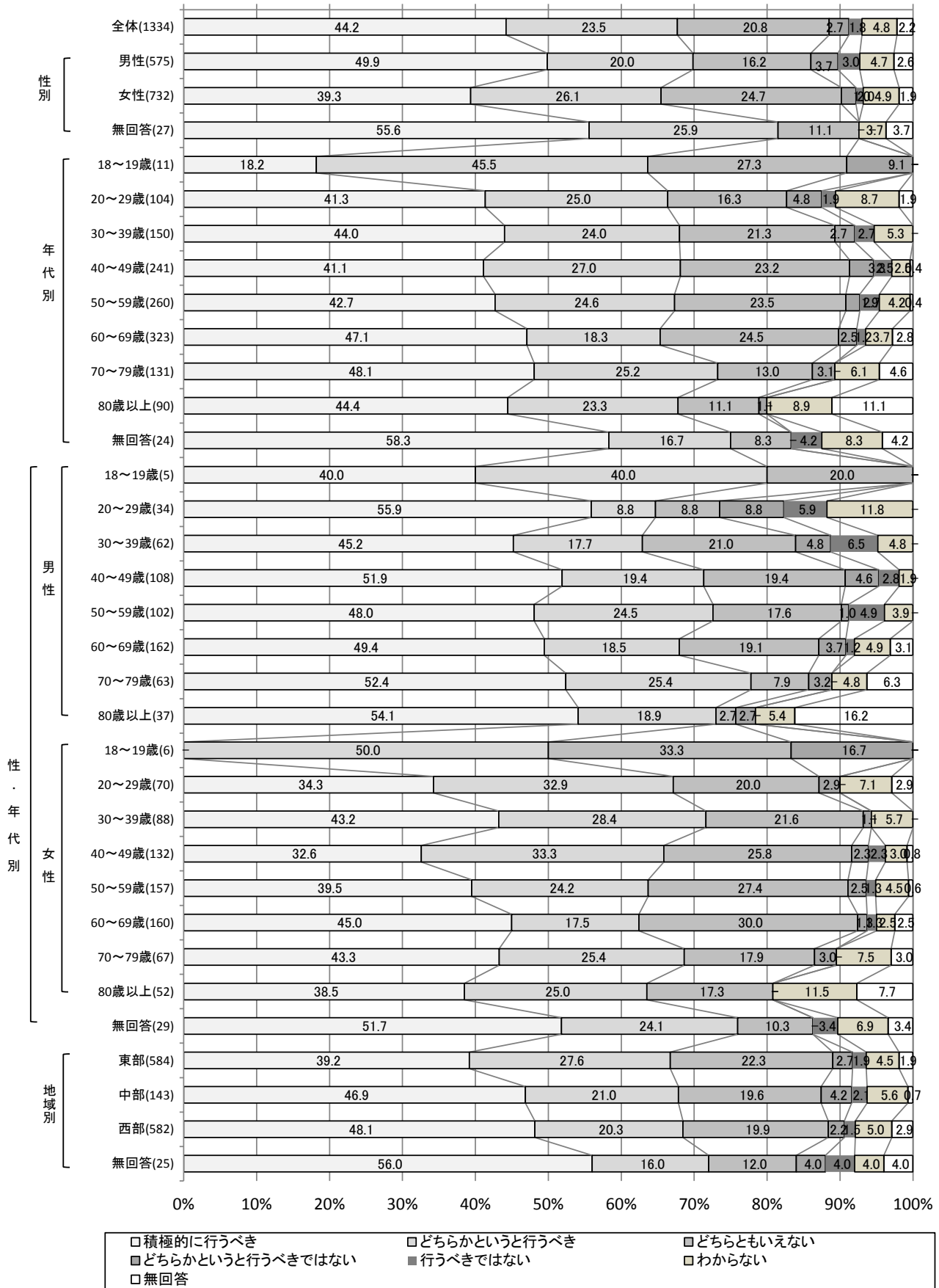


図 27 鳥取県の婚活支援について



問9-2 鳥取県が婚活支援事業を行うことに対する意見(回答はいくつでも)

～出会いや結婚は重要な問題で行政の支援も必要であり、少子化対策にもつながる～

鳥取県が婚活支援事業を行うことに対する意見では、上位の項目は「未婚者にとって出会いや結婚は重要な問題のため、行政の支援も必要だと感じるから」が48.4%、「鳥取県の少子化対策につながると思うから」が47.5%と続き、婚活支援事業は未婚者にとって結婚や少子化対策につながるとい意見が大勢を占めている。

年代別でみると、60～70歳代で「未婚者にとって出会いや結婚は重要な問題のため、行政の支援も必要だと感じるから」「鳥取県の少子化対策につながると思うから」が高い。

性・年代別でみると、男性の30歳代で「重要な問題ではあるが、公費を投入してまで行う必要性は感じないから」「個人の問題のため、行政が支援する必要性はないと思うから」が高く、40～70歳代では「鳥取県の少子化対策につながると思うから」、60～80歳代では「未婚者にとって出会いや結婚は重要な問題のため、行政の支援も必要だと感じるから」が高い。

図 28 鳥取県が婚活支援事業を行うことに対する意見

(n=1,334)

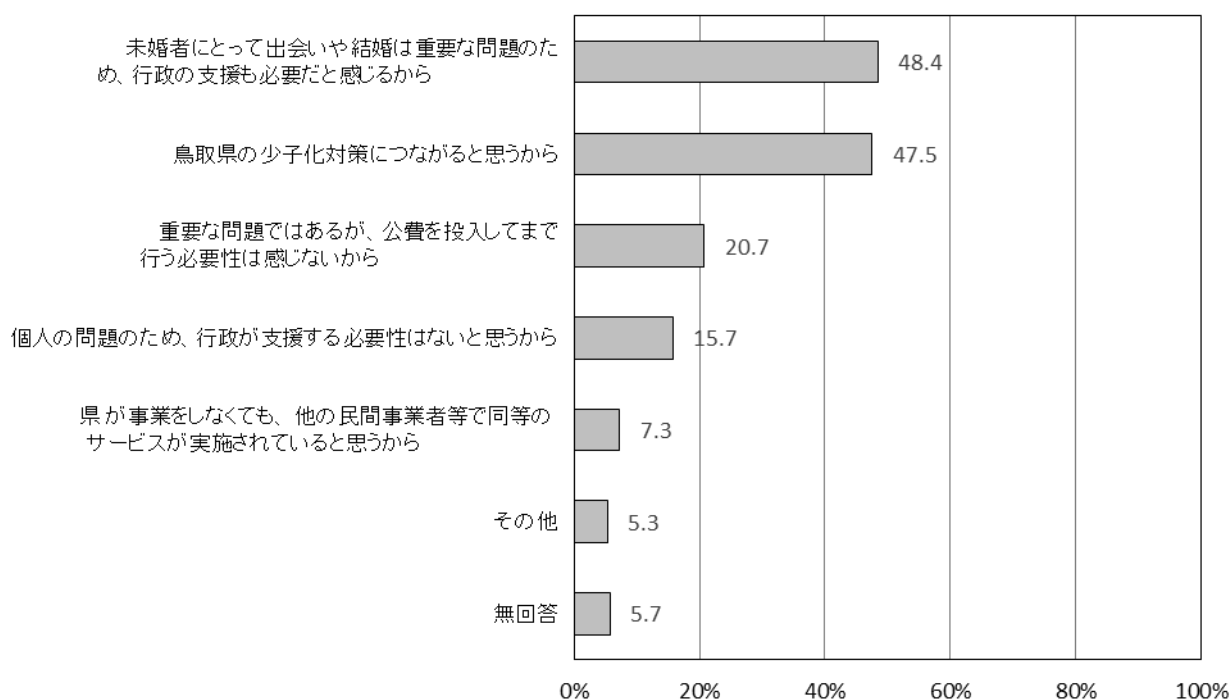
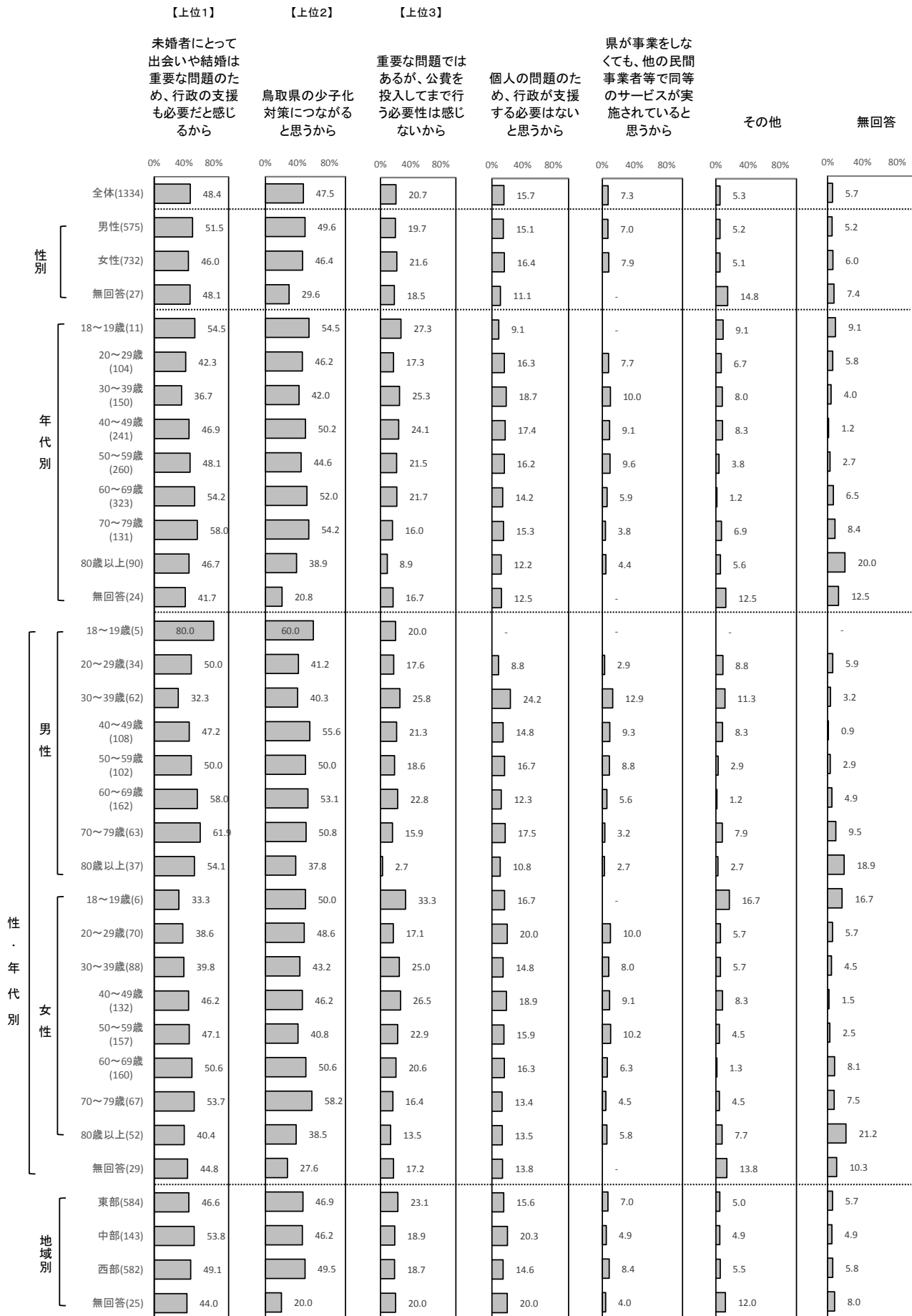


図 29 鳥取県の婚活支援についての考え(理由)



問10 鳥取県の子育て施策に関して御意見がありましたら、御自由にお書きください。

県民の多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

○保育園について待機児童がいなくなっているが、保育園等に預けられる時間が短く、仕事に完全復帰しにくい現実を何とかして欲しい。 ◆(50～59歳 中部)
○助成や支援は満足しています。もっと子供が遊べる場所(例えば動物園や水族館)などの充実や子供と運動ができる場所(ウォーキングするには明りが少ない)を増やして欲しいです。 ◆(30～39歳 中部)
○とっとり子育て応援パスポートには大変お世話になりました。ありがとうございました。 ◆(40～49歳 東部)
○私が住んでいる地域には児童館(学童保育)があり月にかかる費用も安く大変助かっていますが、朝の時間帯に少し不満があります。開館時間を早めていただきたい(土曜・日曜・祝日・振替休日)。 ◆(40～49歳 西部)
○近くに遊べる場所が少なく、ただ友だちも連れて車で出かけるとなると、親の立場・意見で何かあった場合という事で、希望する子ども全てを連れて行けない事もあります。近くでのびのび、ボールなども使える遊び場が欲しかったです。 ◆(40～49歳 東部)
○未婚者に出会いのチャンスを支援する必要がある。少子化対策にも繋がると思う。 ◆(60～69歳 東部)
○結婚の話や子育てに感じる事は、私は一昔前の人間ですずっとこの地区、村を見ていて親や家族が面倒見る家は余りないです。子育てに関わりたいと皆思っているのですが今の年代は何故か嫌うのです。昔のように2・3世代といって、みんな関わっていきたいと言うのですが時代がそうさせたのか、この村には関わる人がないのも悲しい事です。赤ちゃんも小学生も中学生も高校生もこの村にはないです。とても寂しいです。 ◆(80歳以上 東部)
○中山間地域に住んでいるが子育てには大人の支援体制が必要です。子どもたちが危険にさらされる現実(交通事故・部活他暗い夜道の帰宅等)ではバスも一日数本程度の運行に頼るわけにはいきません。従って3世代同居を推進して頂き昔のように助け合える家族が増えていけばいいと考えます。 ◆(60～69歳 東部)
○パスポートは周りでも持っている人が多く役立っている。今後も続けてほしい。 ◆(40～49歳 西部)
○小児科、産婦人科の充実をしてほしい。 ◆(30～39歳 中部)
○市町村により、支援にひらきがあると思う。他の市町村のよい所は、もっと導入してもらいたいと思う。鳥取県の全体での統一化は難しいのでしょうか。(特に子育ての支援) ◆(50～59歳 中部)
○子どもの数が減ってきているのは、第1位に経済的理由が関係していると思う。雇用が充分でないのに、子育てにはお金がかかる。しかも子育て世帯への経済的支援がかなり薄い。(児童手当しかない)これでは子どもを産む人数が減ってくるのは当然。人々が減るのを防ぐなら、もっと子どもを産み育てやすい環境を整えてほしい。(仕事がない→賃金が少ない→養育費がない＝“子どもを産まない”になる) ◆(30～39歳 東部)
○共働きで保育園に行っていて急に病気になった場合、親が近くにいない場合、預けられるネットワークがあれば。看護師さんの退職された方とか。 ◆(50～59歳 東部)
○核家族が多いし、育児休が終わると同時には働く人が多いので0才～1才を見ていただける保育所が増えるといいです。 ◆(50～59歳 西部)
○妊娠→出産→産後の母子へのケア→育児への支援など。産婦人科や小児科での情報ももっと提供できるといいですね。 ◆(50～59歳 東部)

<p>○子育て中、孤立しがちなお母さん(お父さん)を行政で把握でき、助けてあげられる様な施策がもっと必要。例えば、近所の世話焼きおばあちゃんの様な気軽に声をかけてあげられる人材の育成を望みます。 ◆(50～59歳 西部)</p>
<p>○他県出身ですが、医療費など子供の優遇は(不妊治療の支援など)鳥取が自慢できる政策の一つと周りから言われます。今後もぜひ推進してほしいと思います。 ◆(30～39歳 東部)</p>
<p>○多子家庭への経済的支援を進めて頂きたい。子育てへの労力は何とか対応できるが、衣食、学費、医療費など経済的負担が大きく、多産を躊躇する。インフルエンザ等予防接種を無償化するとか、三人目からは医療費をゼロにするとか多子への支援を進めてほしい。また、郷土からの他県大学進学を支援することで、鳥取出身者の高学歴化を後押ししてほしい。 ◆(40～49歳 東部)</p>
<p>○保育料の軽減や免除が、子供が同時に在園している時しか受けられないので、小学校に一人上がると軽減がなくなってしまうのですが、園に入っている時だけが子育てではないと思うので、小学校に第一子が上がってから継続されればいいと思う。一度に三人園に在園することはなかなかないと思います。経済面でもっと子育てしやすくなると嬉しいです。本当はもう一人産みたいけど苦しいので産めそうにありません。残念です。 ◆(30～39歳 東部)</p>
<p>○子育て対策は良くなっていると思いますが、取り組みが段々と広がり県民の意義対策と共に進んでほしいです。 ◆(50～59歳 西部)</p>
<p>○未満児が入園できる保育園が少ない。病児保育、24時間保育の充実が必要と感じる。学童保育の拡大(夏休みの対応、時間の延長など)実際に子育てをしてそう感じました。 ◆(40～49歳 西部)</p>
<p>○行政、民間が協力して、出会いの場を工夫してさまざまな婚活イベントを月ごとに取り組み、行い、婚活の鳥取県をしてアピールしてほしい。 ◆(60～69歳 中部)</p>
<p>○今は分かりませんが、私が子育てをしていた頃は幼稚園の保育料が大変高く(公費補助が少ない)家計の負担となっていました。その辺の改善を望むことと、都会の大学に下宿させているときの負担の大きさを少しでも埋めるために、控除とか手当があってもいいのではと思います。無利子奨学金、県人寮は利用させていただき大変助かりました。 ◆(50～59歳 西部)</p>
<p>○子育て施策が十分とは思われません。特に0歳～3歳、4歳～6歳幼児期に大切な母親が仕事を持ちながらやっている家庭が多いと思います。田舎の方はおじいさん、おばあさんに子供を預けて仕事に出ています。都会になると保育所やその他の施設に入れていきます。大変。県としてもこの施策は今後有識者会議など会合を持ちながら他の予算より多く入れていただき人口減を食い止めることが大切です。 ◆(80歳以上 東部)</p>
<p>○病児保育、施設の数不足している。 ◆(40～49歳 西部)</p>
<p>○子育てと同時に会社勤め先での理解とか無理など職場での子育て中の社員、アルバイト、パートの方の状況など企業主の方のご協力が出来るような環境があったらと常日頃から感じます。 ◆(50～59歳 東部)</p>
<p>○子育てに対して意欲が高くても子育て環境が整っていても、子育ての金銭的不安(学費も含め)があると2人目、3人目は不安になる。企業の賃金向上等、不安なく出産、就学等、子を産み育てる世代への対策が必要。行政だけでなく企業とも連携して。 ◆(40～49歳 西部)</p>

<移住定住に関する施策について>

問11 鳥取県の移住定住施策として強化していく必要があると思われる施策を次の中から3つお選びください。

～就職・起業・就農などの仕事の確保と若い世代への定住の働きかけが必要～

鳥取県の移住定住施策として強化が必要と思われる項目は、「就職、起業、就農など仕事の確保」が71.4%と圧倒的に高く、次いで「若い世代への移住定住の働きかけの促進」が41.4%、「鳥取県の住みよさについての積極的なPR活動」が38.5%、「移住定住者の受け入れ体制の充実」が35.2%、「空き家対策などの住居体制の充実」が27.1%と続いている。

移住定住施策は、職場・仕事の確保をベースとして、鳥取県の住みよさを若い世代へ積極的に働きかけ、空き家対策なども含めた受け入れ体制の整備を行うべきという意見が多くみられる。

性別でみると、男性は「鳥取県の住みよさについての積極的なPR活動」、女性は「就職、起業、就農など仕事の確保」「若い世代への移住定住の働きかけの促進」が多くみられる。

年代別でみると、10～30歳代では「若い世代への移住定住の働きかけの促進」、40～50歳代では「就職、起業、就農など仕事の確保」、70～80歳代では「鳥取県の住みよさについての積極的なPR活動」が多くみられる。

図 30 鳥取県の移住定住施策として強化が必要と思われる項目

(n=1,334)

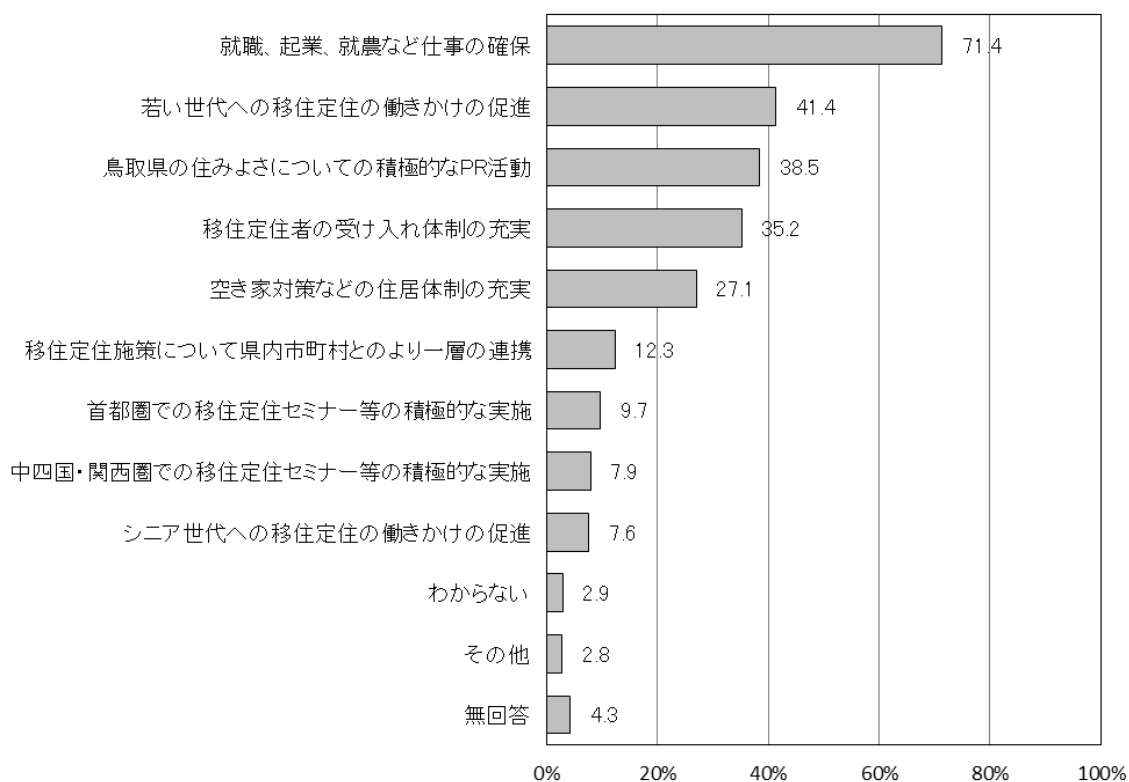
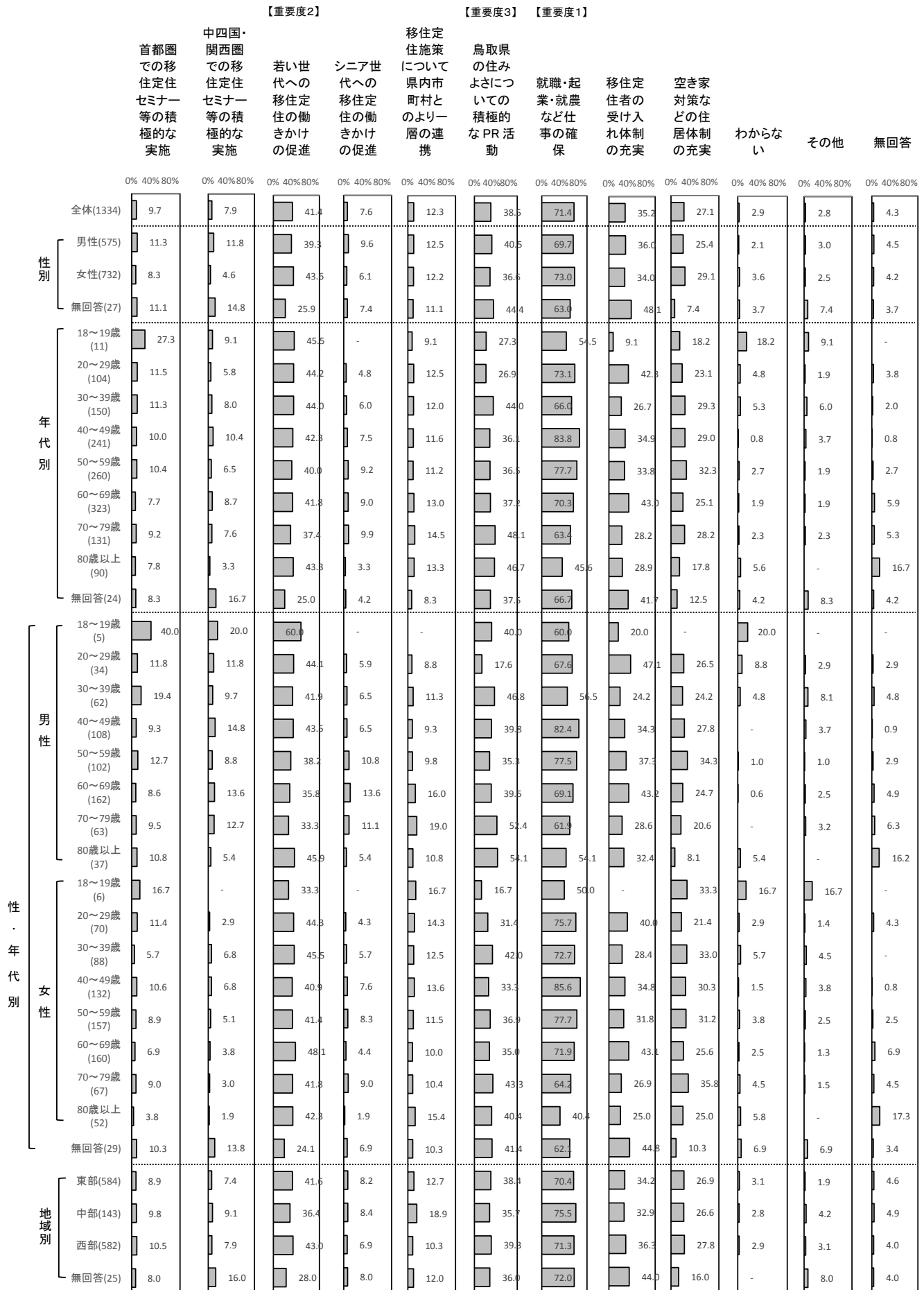


図 31 鳥取県の移住定住施策として強化が必要と思われる施策



問12 あなたが鳥取県の住みよさを県外の方にアピールするとしたら、何をアピールしますか。
次の中から3つお選びください。

～「自然が豊かである」「食べ物の安全性が高く、美味しい食べ物が多い」～

鳥取の住みよさを伝えるアピールポイントは、「自然が豊かである」が 80.3%と圧倒的に高く、次いで「食べ物の安全性が高く、美味しい食べ物が多い」が 63.1%、「治安が良く、犯罪が少なく感じる」が 47.5%と、自然・食べ物、治安に関する項目が上位を占めている。

年代別でみると、40～60歳代は「自然が豊かである」が多く、30～40歳代は「子育て環境が整っている」、80歳代は「高齢者福祉が整っている」、70～80歳代は「地域に住んでいる方の人柄がよい」が多くなっている。

性・年代別でみると、男女とも40～60歳代で「自然が豊かである」が多く、男性の70～80歳代では「高齢者福祉が整っている」、女性の20～40歳代は「子育て環境が整っている」、が多くなっている。

図 32 鳥取の住みよさを伝えるアピールポイント

(n=1,334)

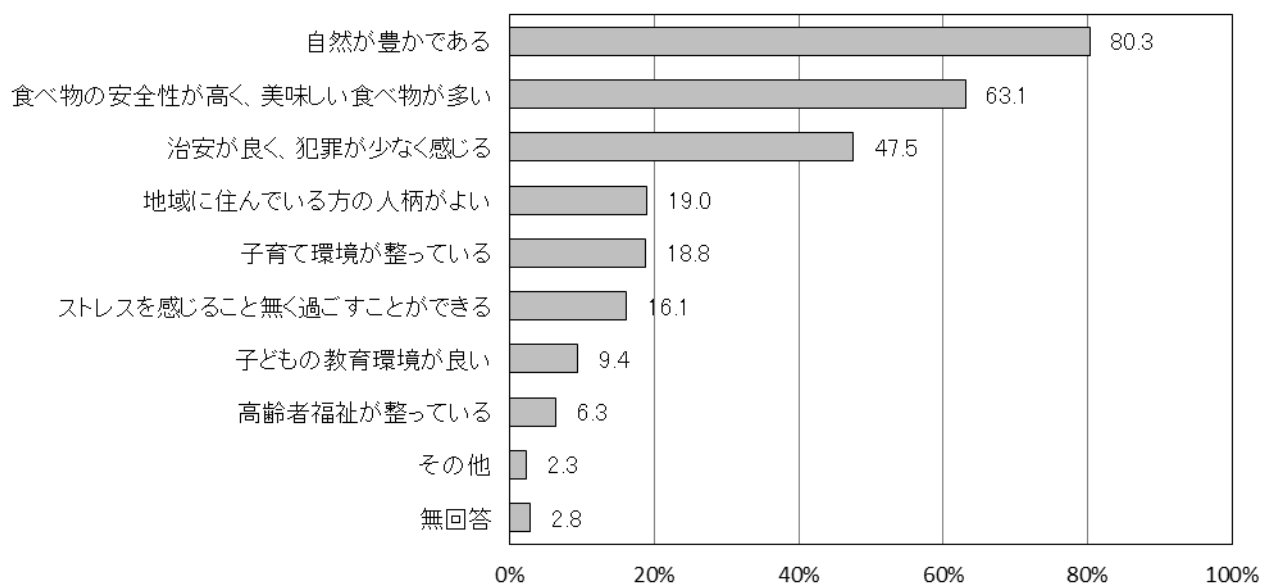
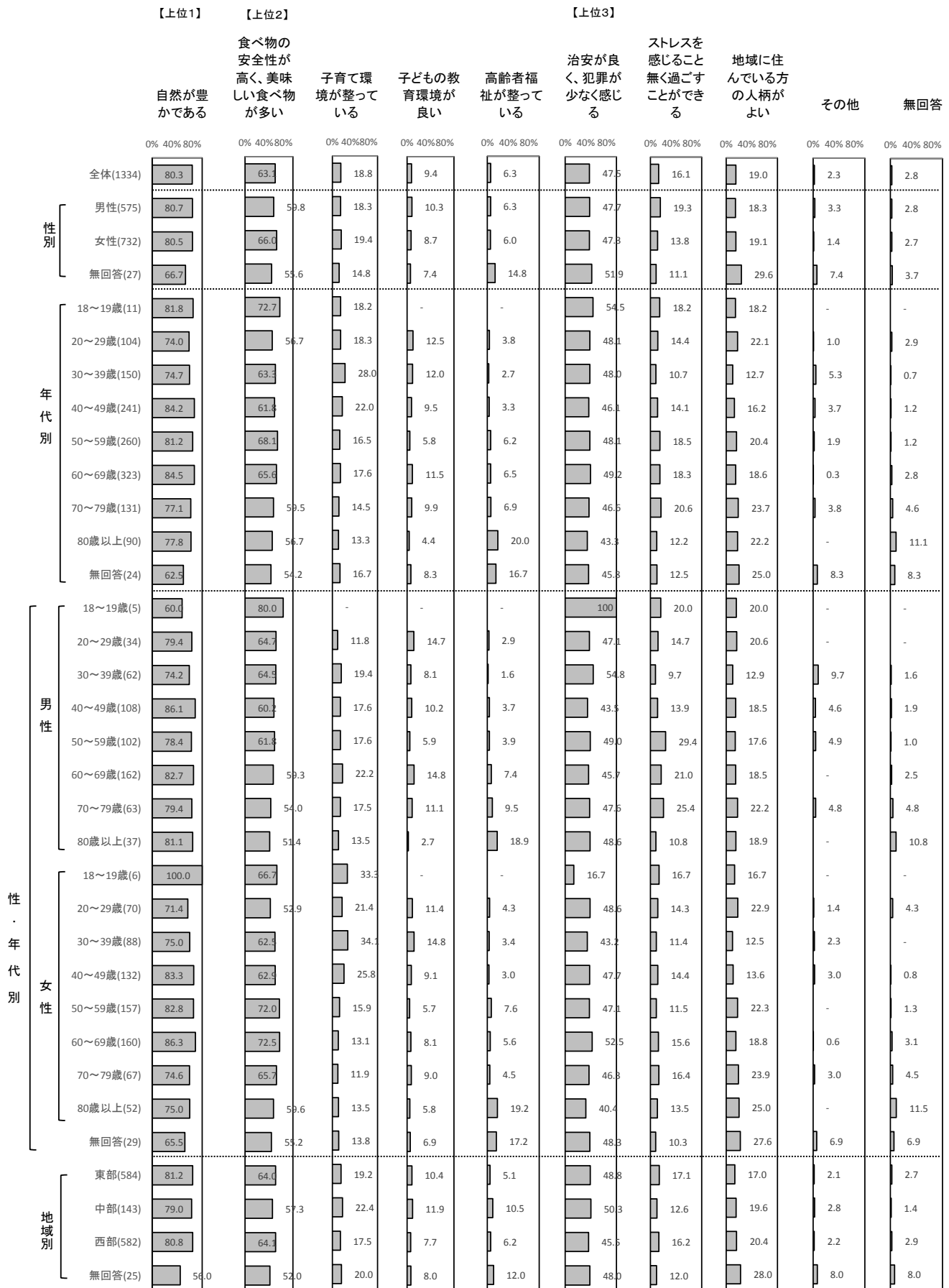


図 33 鳥取県の住みよさを県外の方へアピールする項目



問13 鳥取県の移住定住施策に関して御意見がありましたら御自由にお書きください。

県民の多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

○県外からの移住定住の働きかけについてメリットとともにデメリットも挙げてPRするすることが大切。いわゆるデメリットもそれを補完するメリットがあることを強調していく。やはり、生活するうえで経済的基礎の整備が必要。受け入れ体制(空家の斡旋等)が大切。 ◆(50～59歳 東部)

○移住・定住よりも出て行った家の跡取りに帰ってきてもらう政策をした方が、地域とくに村活動など少人数化地域では必要と思われる。高齢化のため村の設備維持ができない(水路・公民館・自警団)。

○自然体験が豊かで地産の食べ物がたくさんあるので、子育て環境としてはとても良いと思います。これらを十分に生かした上で学力も高く維持していけば他県の若い世代には魅力的に見えると思います。 ◆(40～49歳 東部)

○移住定住は人口のパイの奪い合いにすぎません。むしろスモールタウン化を目指し老朽化する街の生活インフラに対して周辺地域が人々を街の中心部に集めていく施策の方が財政的にも効率が良くなると思います。中心部に人が多く住みやすい街になるほど県外からの移住者も増えやすくなると思います。 ◆(50～59歳 西部)

○鳥取県は車がないと生活できないので車に関する補助をするか、交通機関を充実させた方が良いと思う。 ◆(40～49歳 東部)

○移住者を増やそうとするより若者が安心して働ける職場を確保し、若い人、夫婦が増えれば子供も増え人口減に歯止めがかけられるのではないかと。移住者を増やすことには限界があるような気がする。 ◆(60～69歳 東部)

○就職の場、雇用の場と共に賃金の低さが課題。大企業の誘致が移住に大いに影響。 ◆(60～69歳 東部)

○仕事が確保できれば移住・定住は増えるのではないのでしょうか。都会との賃金格差・希望職種とのマッチングを超える魅力が鳥取県にありますか？県外の人から見て何がいいのかは住んでいる県民には分かりません。外部の人の意見を聞くべきではないのでしょうか。 ◆(40～49歳 西部)

○他県から移住するに当たっては仕事・住居が第一であるけれども移住した後の地域に溶け込めるかという事も課題ではないかと思えます。移住を受け入れるだけでなく、その後のサポートの充実も必要。 ◆(70～79歳 東部)

○移住施策については、移住者によって人口が増加してもその子供世代になるとまた都会へと出てしまふと思います。移住者とその子供を含めて移住できるためにはやはり仕事の確保ですよね。移住者を募る以前に県内出身者の流出を考える方が先ではないのでしょうか。本末転倒になってしまいます。県と企業との取組が大切かと思えます。 ◆(60～69歳 西部)

○県外から移住、就職を一定期間試してみる、という企画があると聞きましたが、良いと思いました。どんどん広げてほしいです。 ◆(40～49歳 西部)
○仕事と住居をセットで案内・紹介した方がよいでしょうか。また農業に関心を持っている若い方が多いので積極的にPRすべだと思う。 ◆(50～59歳 中部)
○若い人の定住の為には、鳥取県にはこんな仕事があるとわかりやすく、働く場のさまざまな情報が簡単に検索できるツールがあればと思います。 ◆(60～69歳 中部)
○出身者を呼び戻す事も大事だが県外出身者等縁のない人を呼び込む事が重要だと思う。 ◆(30～39歳 西部)
○退職したシニア世代に移住してもらい農業を就業先として収入と健康増進を図る。県は農業を組織化した大規模農業への財政統制を行い若者、シニア、障がい者が共同で取り組める事業を支援してほしい。 ◆(60～69歳 東部)
○鳥取県にはいろいろな資源がたくさんありますがうまくアピールができていないと思います。資源プラス衣食住をうまく組み合わせて移住定住につながる施策を今よりアピールしていけばいいのではと思います。 ◆(20～29歳 西部)
○人口減少は鳥取だけの問題ではないので鳥取というところを好きになってもらうように考えてほしいです。 ◆(70～79歳 東部)
○大山鶏や松葉がに以外の地元ブランドもどんどん県外に発信して、それに興味を持つ若者のIターンを受け入れたら良いと思う。 ◆(30～39歳 西部)
○①大学・専門学校がないからみんな県外に進学してしまう。できれば地元から通わせたい。地元で学校があれば地元で就職するので、それだけでも大きく変わってくると思う。(鳥取県は高校卒業したら8割、9割が県外に出ってしまう現状がある)②一度県外に出た人を呼び戻すのはなかなか難しい。それなら出ないように工夫するべきだ。 ◆(30～39歳 東部)
○県外から定住されている方に聞くと、鳥取は山・海があり自然が豊かで人間性がいいと聞きます。スーパーも充実していて地域の企業のスーパーを利用している、魚・野菜・肉がおいしいとのこと。あとは生活していくうえで就労の場をどんどん増やすべき。文化施設(本当にいいもの、鳥取県に行きたくなるような美術館の建設やエンターテインメントの誘致をもっと力を入れて文化意識の向上を) ◆(50～59歳 東部)
○正社員としての雇用の確保、特に30～40代で非正規社員は多い。まずは働き口がしっかりしていなければ婚活、子育て、住居の確保が難しい。自然の豊かさ、暮らしやすさのアピールだけでは人は集まらない。大手安定企業の誘致必要。 ◆(40～49歳 西部)

<就業や雇用に関する施策について>

問14 鳥取県では「鳥取県正規雇用1万人チャレンジ計画」として、雇用の拡大を目指していますが、このことについて御存知でしたか、また関心がありますか。(○は1つ)

～『知らなかった』と回答の方が7割と認知度は低い～

鳥取県の「鳥取県正規雇用1万人チャレンジ計画」の認知度は、「知らなかった」が74.7%と7割を超えており、「知っていて、関心もある」が13.2%、「知っていたが、特に関心はない」が8.3%と、約2割が知っていると答えている。

性別で見ると、男性が女性と比較して「知っていて、関心もある」が多くみられる。

年代別で見ると、20歳代は「知っていて、関心もある」が6.7%と最も少ないが、年齢が高くなるにしたがって認知度は高く、70～80歳代では4割弱となっている。

性・年代別で見ると、男女とも同様の傾向がみられ、20歳代では認知度が最も低く70～80歳代で最も高くなっている。

地域別で見ると、東部近くが他地域に比べて認知度は高くなっている。

図 34 鳥取県の「鳥取県正規雇用1万人チャレンジ計画」の認知度

(n=1,334)

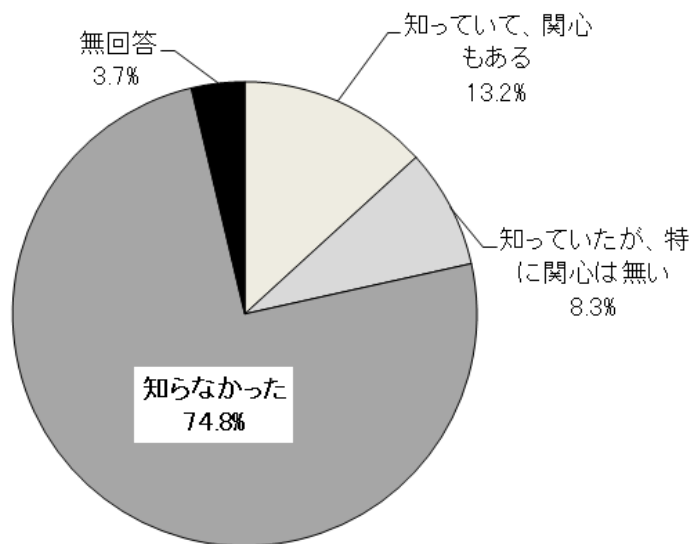
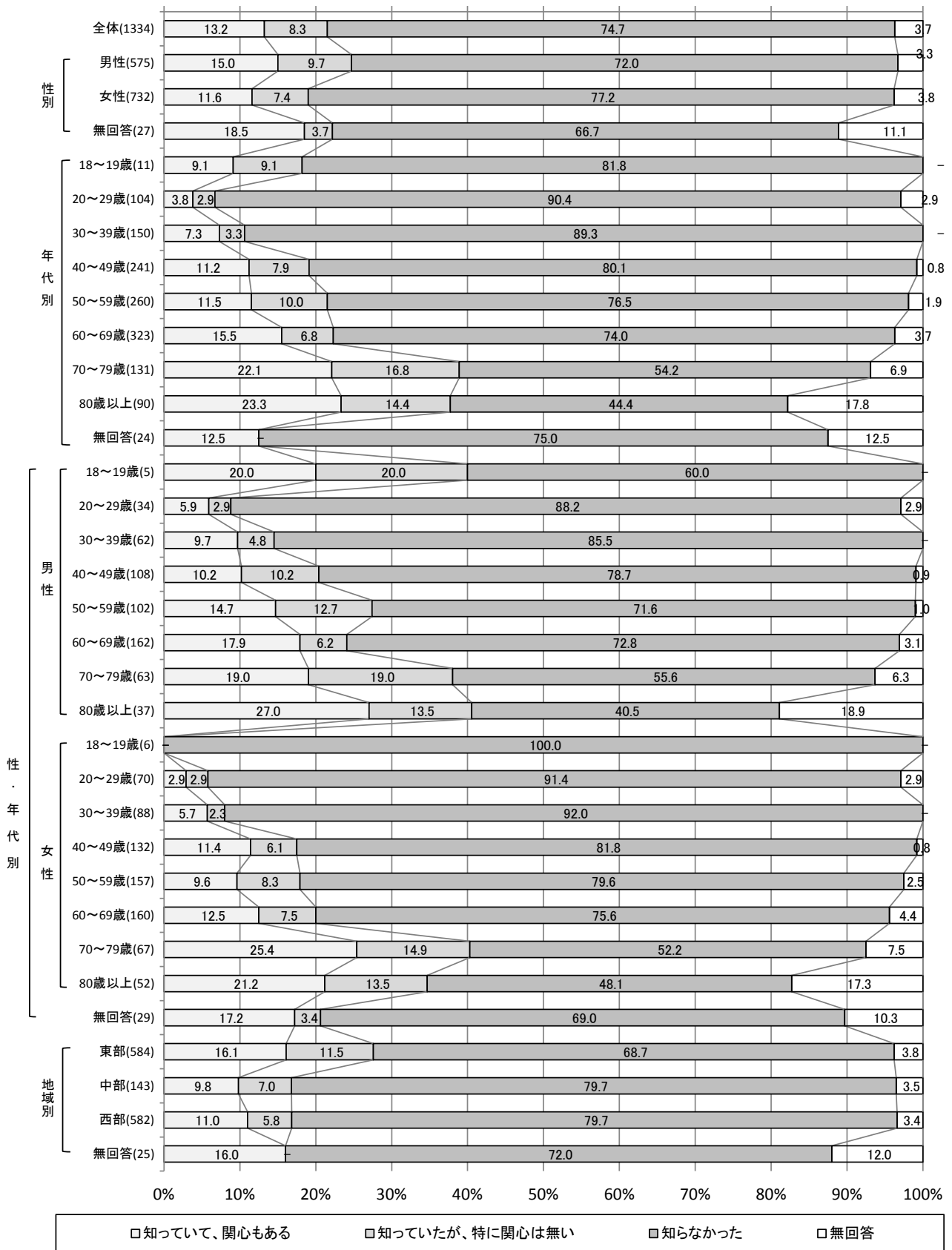


図 35 『鳥取県正規雇用1万人チャレンジ計画』をしているか・関心があるか



問15 鳥取県内の雇用や就業支援に関して県の取組として強化していく必要があると思われる施策を次の中から3つお選びください。

～企業誘致など働く場の確保を強化すべきと6割以上が回答～

雇用や就業支援に関して県の取組として強化が必要な施策は、「企業誘致など働く場の確保」が64.6%と最も多く、次いで「県内出身で県外大学へ進学した者の県内就職(Uターン)促進」が39.1%、「子育てや介護に対応した労働環境の改善」が37.8%、「非正規雇用者の労働環境の改善」が36.1%と続いている。

性別でみると、男性は「企業誘致など働く場の確保」、女性は「県内出身で県外大学へ進学した者の県内就職(Uターン)促進」「子育てや介護に対応した労働環境の改善」「非正規雇用者の労働環境の改善」が最も多い。

年代別でみると、10～20歳代は「県内出身で県外大学へ進学した者の県内就職(Uターン)促進」、20～40歳代は「子育てや介護に対応した労働環境の改善」、40～50歳代は「企業誘致など働く場の確保」、50～60歳代は「非正規雇用者の労働環境の改善」が多くみられる。

性・年代別でみると、男性の50～70歳代は「企業誘致など働く場の確保」、女性の20～40歳代は「子育てや介護に対応した労働環境の改善」が多くなっている。

図 36 鳥取県内の雇用や就業支援に関して強化が必要な施策

(n=1,334)

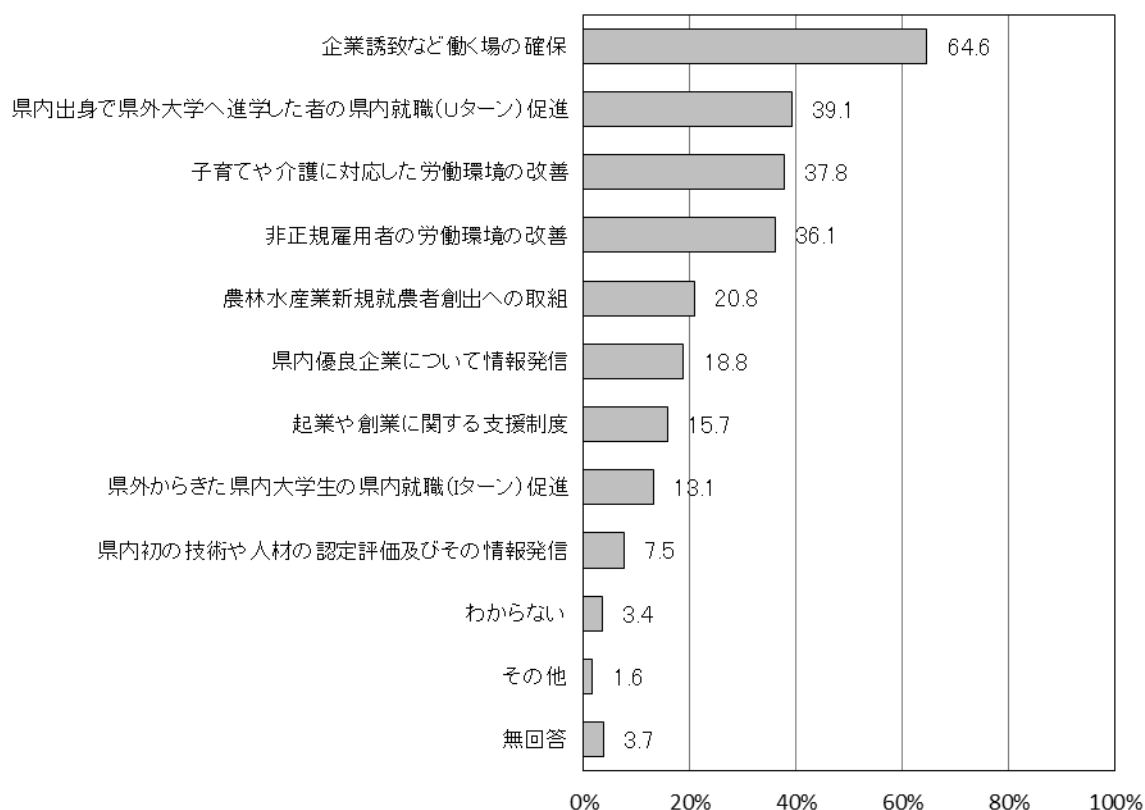
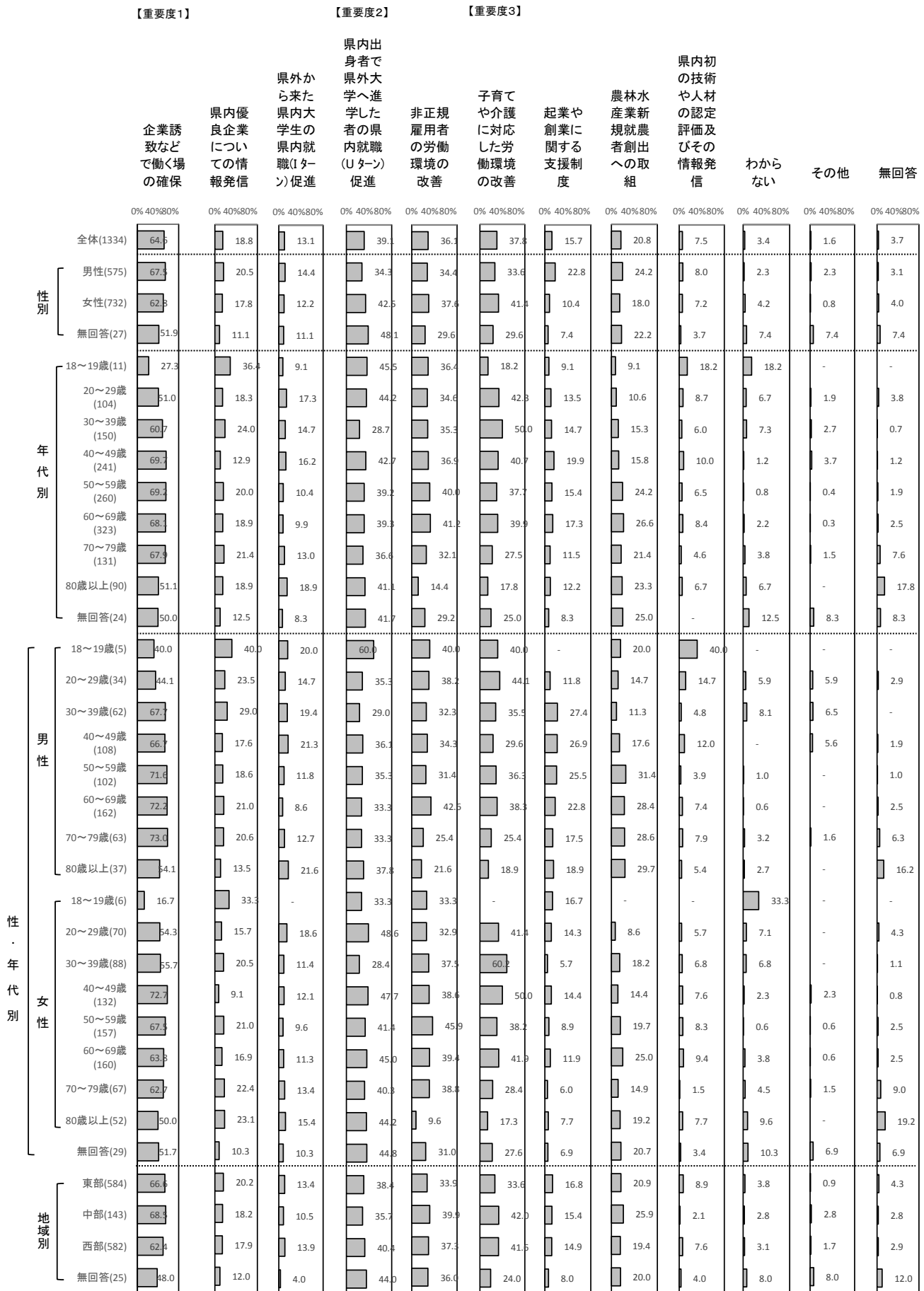


図 37 鳥取県内の雇用や就業支援についての県の取組として強化が必要な施策



問16 今後、鳥取県において必要となってくる産業分野は何だと思いますか。

次の中から3つお選びください。

～今後の必要な産業分野は、医療・介護福祉産業や農林水産・畜産業～

鳥取県において今後必要となってくる産業分野は、「医療・介護福祉産業」が59.4%と最も多く6割近くを占めている。次いで「農林水産・畜産業」が57.7%、「製造業(飲食・工業品製造業)」が40.8%、「宿泊業・飲食サービス業」が26.3%、「情報通信業」が24.6%と続いている。

性別で見ると、男性は「農林水産・畜産業」、女性は「医療・介護福祉産業」が最も多い。

年代別で見ると、10～40歳代で「宿泊業・飲食サービス業」、30～70歳代で「農林水産・畜産業」、40～70歳代で「医療・介護福祉産業」、20歳代で「情報通信業」が多い。

地域別で見ると、東部では「製造業(飲食・工業品製造業)」、中部では「農林水産・畜産業」「医療・介護福祉産業」、西部では「医療・介護福祉産業」が多い。

図38 鳥取県において今後必要となってくる産業分野

(n=1,334)

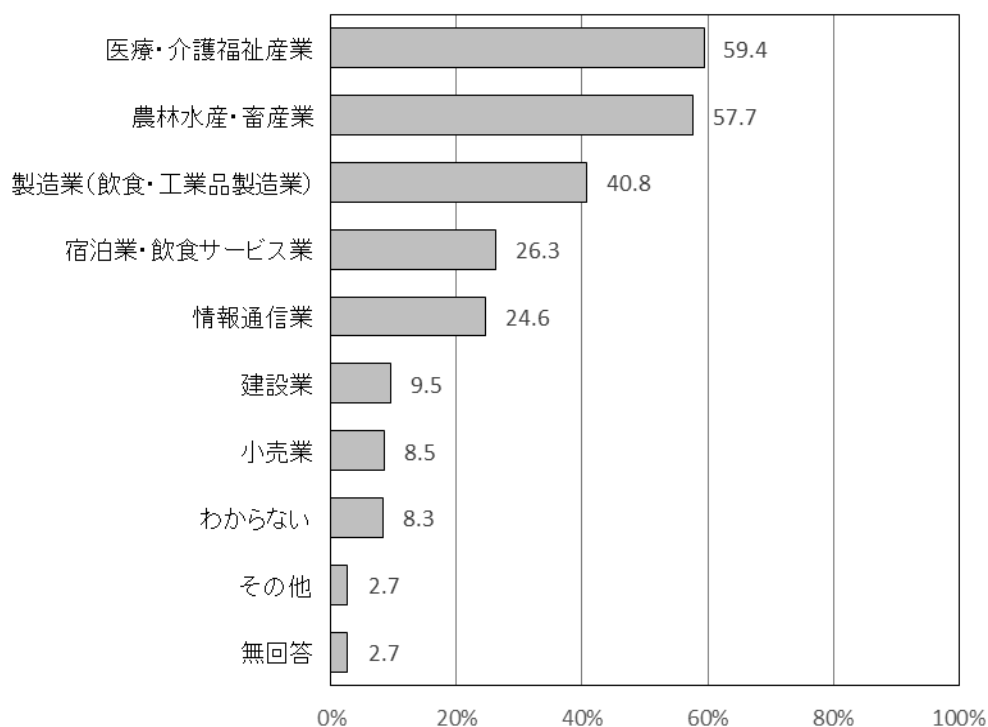
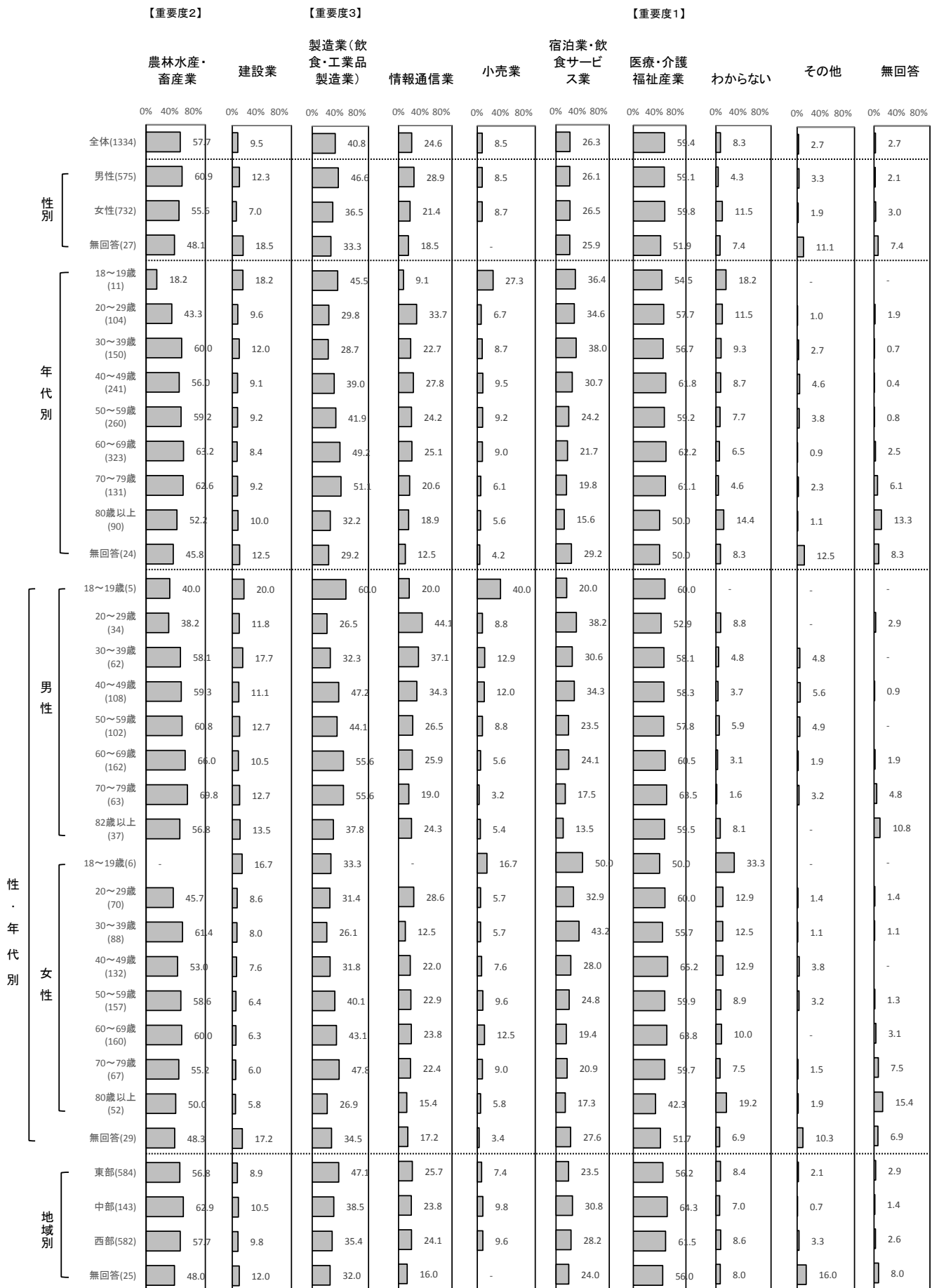


図 39 今後、鳥取県において必要となってくる産業分野



問17 鳥取県の就業や雇用に関する施策に関する御意見を御自由にお書きください。

県民の多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

○若者には正規雇用でなければ将来の希望が持てません。 ◆(60～69歳 東部)
○AIの発展に伴い、今ある仕事の半分程度はロボット等にとってかわられる時代が来ることも想定した就業構想を考えることも必要かと思うが、今『働きたい』と思っている人が働ける場を確保することが一番大切と思う。 ◆(50～59歳 東部)
○鳥取県内には給与etc.の魅力的な職場がありません。都会に行くためにはお金や時間もかかり派手な暮らしをすることに憧れている若い子達は帰ってきません。(静かにつつましく暮らすにはよい場所ですが・・・)企業誘致に力を入れてもっと稼げるようにしたら良いと思います。 ◆(40～49歳 西部)
○働く場の確保はもちろんだが、賃金の水準アップが必要。また休日を過ぎずリフレッシュできる場が少ない。わざと県外へ進学・就職したり、遊びに行かなければならない。若者の県内離れは当然のこと。パチンコ店のみ増えても限られた人のみの娯楽の場であり、環境的にもあまり良いとはいえない。もっと意味のある施設を建築すべき。 ◆(40～49歳 東部)
○今現在鳥取県にある企業の後継者の育成。職人業など高齢化が進み先が心配。県内県外問わず『〇〇職の後継者育成』、受け入れを発信。助成金や相談窓口(現実的な問題、人としてのあり方等、精神的な支援も含め)などの充実拡大と広報が大切だと思います。何にしても知らない事、知らされていない事が閉鎖的でもったいない事であると思います。 ◆(30～39歳 東部)
○みんなが生き生きと働ける鳥取県にしていって下さい。鳥取県民はみんな1つだと思えます。どんどん正規雇用を増やしみんなが安心して暮らせる鳥取県にしていって欲しいです。 ◆(20～29歳 西部)
○鳥取県の就業・雇用に関するアンケート中にハローワーク業務の役割、位置付けについての項目も設ければ県としての政策についての意見として参考になると思われます。 ◆(50～59歳 西部)
○女性の就業率がかなり高いと思うが、正規雇用の割合は低い。パート雇用でも構わないが他都市に比べて賃金が低いと思う。フルタイムで働いているのに一月の手取りが10万前後では辛いのと、男性(夫)の家事への参加率もかなり低い。『奥さんも働いて当たり前』だけど、『家事は奥さんの仕事』と考えている夫も多すぎて驚きます。 ◆(30～39歳 東部)
○鳥取県未来人材育成奨学金支援助成金、とてもよい制度だと思います。もし可能性があれば、業種に『農業』をご検討いただけないでしょうか。子ども2人は就農を目指し進学していますが、卒業して自立就農するとなると(それを希望しています)毎月定額の収入はもちろんいきなりは望めず、少し不安は感じています。我が家はいざとなれば家土地を手放せばまとまった金額を用意はできるが・・・と考えてはいますが、そういう家ばかりではないはず。第一次産業の担い手増にも繋がるのではと考えます。定額収入が望めない分野(農業、畜産業、水産業、林業)こそ不安は大きいですので・・・ ◆(40～49歳 東部)
○医療関係を学んでいる学生・社会人のUターン・Iターン支援を積極的に行ってほしい。県内に学校が増えたのは良い事ですが、県外で経験を積んだ若者をUターンIターンで雇用を増やしたい。定住施策にもなる。高齢化している状況を心配している。 ◆(50～59歳 東部)
○労働環境の改善、そして県外大学や就職した若い世代が帰りたいと本気で考える、思える企業の充実を望む。そして都会では休日に遊び場も充実している環境にあるのでそういう場所の充実も望む。例として花回廊など行ってみたい場所に若い世代向けの内容も加味する。また、都会にあって田舎になかったスタバが進出。セブンイレブンも同様にウィークデーと休日、共に楽しめる県になるように、今ある県の良い所をさらに充実していくと良いのではないかと思います。PS.花回廊のナイト営業は好評だと思います。 ◆(60～69歳 西部)

○介護はニーズが高まってくるので、人材育成にもっと力を入れたら良いと思います。他業種で働いていても研修を受け、資格が取れる体制があると良いのではないのでしょうか。 ◆(30～39歳 西部)
○自分の姉が大学まで行って社会福祉士の資格を取得したが、資格を持っていてもそれを有効にできる職場が鳥取県西部地区にはないのは残念である。有資格者にもっと有効な職場の確保があるといい。特に病院関係は高齢者の人で埋まっていて新規募集が全く出ない。県外就職すれば良かったと嘆いている。 ◆(20～29歳 西部)
○自然環境を利用した雇用と教育の質を高める。鳥取大学の学生は県外からも来ている。この能力をどう生かすか(県内出身者も含め)居住者などを支援して、より優秀な学生が来る環境を整える。活性化のもと新しい発想にある。どう具体的に現実化していくかは、地域活動の幅を広げて若い人の定住へと結ぶ糸となる。 ◆(60～69歳 東部)
○鳥取県ではまだまだ非正規社員が多く正規社員にはなれない人が多く仕事は何でも給料差やボーナスのない所もあり就業にも生活不安があるように感じます。 ◆(70～79歳 東部)
○企業誘致を積極的に行っているのはとても素晴らしいことである。その企業の素晴らしさをもっとPRして県外の大学に進学した優秀な学生がふるさと鳥取に安心して戻って来れる環境を作っていくことが大事である。また戻ってこようとしている人々を積極的に雇用していくことも大事。 ◆(50～59歳 東部)
○働く場がなければ若者は都会に行くしかありません。鳥取県では職業選択の自由度が低いと思います。地元に住むためには妥協しなくてはなりません。働く場をもっと増やしてほしい。 ◆(40～49歳 西部)
○鳥取県の雇用環境は全国と比べるとまだまだ低いと思います。積極的に企業誘致をして働く場の確保が最優先だと思います。 ◆(50～59歳 西部)
○労働賃金が安すぎます。シングルマザーの中には精一杯働いても貧困から抜け出せない人が大勢います。そこから教育の格差が生まれています。これらの実情をふまえ対策をお願いします。 ◆(60～69歳 東部)
○子供は大学3年ですが、県外にいる本人宛に直接「県内の就職情報誌」が届けていただければありがたいです。 ◆(50～59歳 西部)
○とにかく鳥取に働く場を!!PRを!!誘致を!! 東京の友人が『鳥取に帰ってきたいが働く場所がない』と嘆いていた。そう感じる人はたくさんいるはず。 ◆(40～49歳 中部)
○雇用主が若者を育てようという気持ちがない。今が良ければよいという気持ちで先の事、5～10年先と、先のことまで考えてない。県内の中小企業はほとんど今の事しか考えていない。何社もそういう会社を見てきた。 ◆(60～69歳 東部)
○大企業への助成金を充実させるより、中小企業への助成金を充実させるべきだ。例えば10年、20年と経営している会社への助成金を出すとか。とにかく中小企業(零細企業)への助成金等でもっと魅力のある仕組みを作るべきだ。 ◆(40～49歳 東部)
○やはり企業の経営改善へ力点を。利益率改善、競争力UPへ経学者等コンサル重視、最終的に雇用者利益へ。労働分配率の適正化チェックや労働環境の是正を通じ雇用者保護。企業で難し個人々人の家庭事情に配慮した公的支援の充実 ◆(50～59歳 西部)
○業種は関係なく、開発・製造・サービスまで含めた企業の誘致や起業が必要だと思います。ただの製造では若い人のモチベーションも上がらない。働く人が誇れる鳥取ブランドの企業があればと思います。実際、ただの製造工業では人も集まらないという話をよく聞きます。 ◆(50～59歳 東部)